

介護分野における『実装研究のための統合フレームワーク（CFIR）』の活用

- ▶ 介護テクノロジーの開発と商品化がAMED事業等で支援されてきた
- ▶ 社会実装には多様な要因が影響することが知られている
- ▶ 実装研究の知見を介護テクノロジーの社会実装に適応する

実装研究

- 実装研究:エビデンスプラクティスギャップを埋めて、研究成果を社会に実装することを目指す研究領域
- エビデンスプラクティスギャップ:再現性の高い研究成果のエビデンスが得られても、社会実装の段階で成果を再現できないこと
- Efficacy, Effectivenessを示した先に実装研究がある(右図参照)
 - Efficacy:実験室内等で得られる再現性の高いエビデンス
 - Effectiveness:現実的な条件下で得られるエビデンス
- 実装研究の種類の場合
 - 実装戦略を作る:実装研究のための統合フレームワーク(CFIR)など
 - 実装結果を評価する:実装アウトカム(REAIM)など
- 実装研究のための統合フレームワーク(CFIR)
 - 5領域、39構成概念からなる(右表参照)
 - 構成概念ごとに促進因子、阻害因子を特定し、実装戦略を作成する

介護分野での活用例（移乗非装着）

- 介護テクノロジー導入の好事例から促進因子、阻害因子を特定
 - 促進因子の例:
 - I-C 相対的優位性:「高齢の職員でも働ける」
 - III-D-1 変化への切迫感:「スタッフの腰を守る」
 - V-A 計画:「施設全体への展開は計画的に進める」
 - 阻害因子の例:
 - I-D 適応性:「対象者が限定される」「使用環境との相性がある」
 - I-H 費用:「簡単に買い替えできる金額ではない」
 - III-E-2 利用可能な資源:「限られた台数を使いまわし」

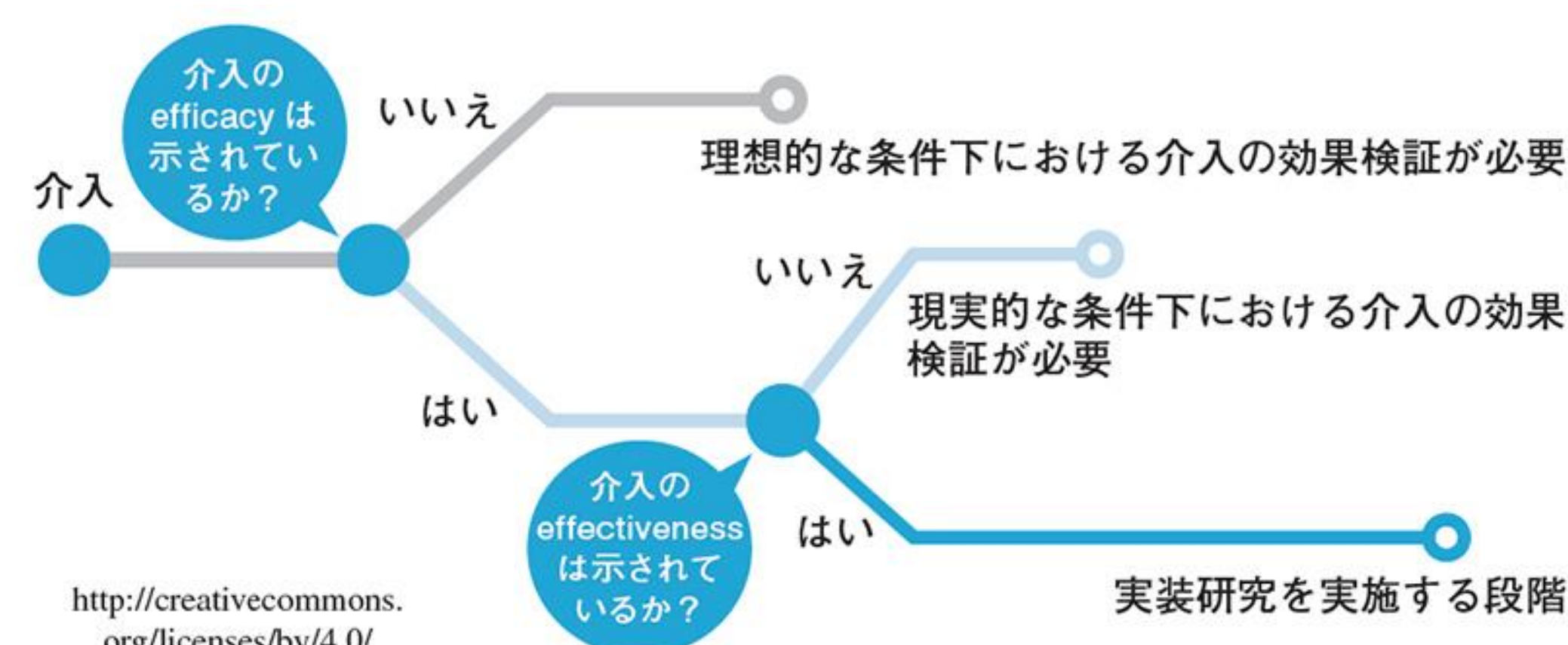


図:実装研究を実施する前に推奨される確認フロー
(医学書院ホームページ『実装科学でめざすEBMの次の一手』より)
(https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2021/3439_01)

表:実装研究のための統合フレームワーク(CFIR)の5領域、39構成概念

I. 介入の特性		II. 外的セッティング		III. 内的セッティング	
I-A	介入の出所	II-A	患者のニーズと資源	III-A	構造特性(組織構造)
I-B	エビデンスの強さと質	II-B	コスモポリタニズム(共同可能性)	III-B	ネットワークとコミュニケーション
I-C	相対的優位性	II-C	同業者からの圧力	III-C	文化
I-D	適応性	II-D	外的な施策やインセンティブ	III-D	実装風土
I-E	試験可能性			III-E	実装の準備性
I-F	複雑性			III-E-1	リーダーシップ・エンゲージメント
I-G	デザインの質とパッケージング			III-E-2	利用可能な資源
I-H	費用			III-E-3	知識や情報へのアクセス
IV. 個人特性		V. プロセス		III-D	実装風土
IV-A	介入についての知識や信念	V-A	計画	III-D-1	変化への切迫感
IV-B	自己効力感	V-B	エンゲージング	III-D-2	適合性
IV-C	個人の行動変容のステージ	V-B-1	オピニオンリーダー	III-D-3	相対的優先度
IV-D	組織との一体感	V-B-2	公式に任命された内部の実装リーダー	III-D-4	組織のインセンティブや報酬
IV-E	その他の個人的特性	V-B-3	チャンピオン	III-D-5	目標とフィードバック
		V-B-4	外部のチェンジ・エージェント	III-D-6	学習風土
		V-C	実行		
		V-D	振り返りと評価		

参考資料

- 内富庸介(監修)、今村晴彦、島津太一(監訳)、『実装研究のための統合フレームワーク—CFIR—』、保健医療福祉における普及と実装科学研究会、2021
- 梶谷勇、山内閑子、『移乗介護支援機器の導入好事例に対する実装科学フレームワークを用いた分析報告』、第43回 日本ロボット学会学術講演会、2025